



袋井あやぐも学園

袋井市立袋井中学校だより



幼小中一貫カリキュラムにより自主（Iの力）と（Weの力）を育成する学園

— 自主・協同 —

～夢を追い続ける生徒の育成～

令和4年1月7日発行

## 3学期がスタートしました

新年明けましておめでとうございます。13日間の冬休みが終わり、1月6日から49日間の3学期がスタートしました。新型コロナウイルス感染症対策のため、リモートでの3学期始業式を行いました。

### < 3学期始業式 校長式辞より（一部抜粋） >

袋井中学校では挨拶賞があるとおり、挨拶を重視しています。なぜ、本校では挨拶を重視しているのか、そして本校の挨拶の様子は活発といえるのでしょうか。少し考えてみてください。

元旦にある記事を目にしました。羽生結弦選手が前人未達のクワッドアクセル（4回転半ジャンプ）に挑戦し、6度目の大会制覇を成し遂げ、見事北京冬季オリンピックの出場権を獲得しましたが、この羽生選手たちが滑るリンクの管理をしているこの道60年の製氷作業員・高橋二男（たかはしつぎお）さんの言葉についてです。



高橋さんによれば、一流の選手かどうかは、滑り終わったときのリンクの傷跡、つまり、穴の大きさやキズの長さで選手の技量が分かるそうです。羽生選手の傷跡はとて少なく、超一流の証は氷上にも刻まれているそうです。そして、長年、スケーターを支えてきた高橋さんが、次のような裏話も教えてくれました。「いろんな選手を見てきたね。現役時代は全く挨拶しなかったのに、プロになって急に愛想を振りまく人もいた。でも羽生君は違いますよ。製氷ですれ違いと必ず僕らにも頭を下げしてくれる。なかなかできることじゃないですよ」彼がなぜ世界中から脚光を浴び続けるのか。こうして現場の声を聞くとよく分かるという話です。

もう一つ、長沼健（ながぬま けん）さんのお話も紹介します。1968年のメキシコオリンピックで日本のサッカーチームが大方の予想を覆し、銅メダルを獲得しました。そのときの代表監督が、長沼健（ながぬまけん）という人です。長沼さんはその後、日本のプロリーグであるJリーグを作ることに尽力し、日本サッカーのレベルを向上させた方です。その長沼さんが、「サッカーが上手になるためには、2つのものが必要だ」ということを常々言っていたそうです。

「長沼さんの話を聞いて『同じですね。私たちの世界もそうです』と言った人がいます。その人は、プロ野球で昔9年連続優勝した巨人軍の川上 哲治（かわかみ てつはる）監督です。野球の世界でも同じだそうです。もう一人『同じです』と言った人がいます。東京で一番の進学校だと言われる高校の進学担当の先生です。勉強の世界でも同じだそうです。」

それでは、その2つとは一体何でしょうか。それは、挨拶と整理整頓だそうです。しかし、「この長沼さんの話を聞いて、長沼さんに質問した人がいたそうです。『挨拶や整理整頓ができなくても、サッカーが上手になる人はいますか？』と。すると長沼さんは、こう答えたそうです。『いません。絶対にいません。何千人という選手を育ててきましたが、サッカーが上手になる人は、必ず自分から挨拶ができ、整理整頓がきちんとできる人なのです。なぜかはわかりませんが』と。」  
どんな世界でも、上達する人・一流になる人は、「挨拶」と「整理整頓」ができるという話は、人

として大切なことを私たちに教えてくれています。思うに、「挨拶」ができるということは、自分のからに閉じこもることなく心を開いて、「人」と上手につき合えるということ、「人」を認め大切にできるということではないでしょうか。「整理整頓」ができるということは、頭の中も整理整頓して物事を一つ一つきちんとこなしていけるということ、そして「物」を大切にできるということではないでしょうか。この「人」と「物」の字をつなげると人物になりますが、よく言われる「あの人は、なかなかの人物だ」と例えられる言葉にもつながりますね。「挨拶」や「整理整頓」ができるということは、人から素直に教えを受け、身の回りの事柄を一つ一つきちんとこなしていくことにつながり、その人の能力を確実に高めていくのではないかと、そしてそれがいろいろな分野で上達したり、一流の人になったりすると思います。

最後に、私からみなさんの挨拶について感じていることを話します。学校内での友達や先生方への挨拶はよくできていると思います。しかし、校内での来校者への挨拶はどうでしょうか？挨拶を交わしているのでしょうか？できる人は必ずしも多くはないと思います。

学校外での挨拶はどうでしょうか？道ですれ違う人は、不審者対策ということもあり、気軽に挨拶はなかなかできないものです。しかし、顔見知りの人への挨拶は、例えば登下校時にボランティアで見守りをしている方々への挨拶はどうでしょうか？地域の方からは、よくできるという意見と挨拶ができていないという両方の意見をいただいています。

私は朝、正門に立っていますが、生徒のみなさんの大きな声で「おはようございます」という挨拶から元気をもらうことがある反面、こちらから挨拶をしても、何も挨拶が返ってこなくて、とても寂しい気持ちになることがあります。中には、お辞儀をしたり、小声で挨拶をしたりしている人もいますが、もっと元気に明るく挨拶をすれば、お互いが気持ちよくなると思っています。たかが挨拶ですが、されど挨拶です。羽生選手やサッカーなどのスポーツ面だけでなく、学習面においても挨拶ができる人は、これから伸びていく人だというのは先ほどの話の通りです。そして、私は修学旅行中の3年生の姿から、自然に挨拶ができる人がたくさんいると実感しています。

1月7日からは1年生の保護者が挨拶当番で正門に立っていただきます。ぜひ、これまで以上に元気な声で、挨拶を交わし、袋井中学生は挨拶ができる一流の袋中生という姿をぜひ、今日から示してください。みなさんならできると思います。期待しています。

## 交通安全指導

全校生徒で無事故、無違反を目指しましょう!!

始業式の後、全校生徒対象に交通安全指導をリモートで行いました。昨年の自転車マナーやルールで問題となっている並進走、ノーヘル、二人乗りの現状を生徒に伝え、地域の方からも事故が起きないか心配されていることや、命の大切さについて再度指導しました。登下校だけでなく、放課後や土日の自転車の乗り方について御家庭でも指導をお願いします。



## 新型コロナ第6波に備えて

新型コロナウイルスオミクロン株が流行し、県内でも感染者が増加傾向にあります。学校では今後も引き続き感染症対策を行ってまいります。御家庭でもお子さんの毎朝の検温、風邪症状の有無の確認等感染予防への御協力をお願いします。